

理学療法室の紹介



一般財団法人 黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

目次

- 当院理学療法士の業務
- 教育体制
- スタッフの声
- 室長から

当院理学療法士の業務

● 急性期・一般病棟

入院初日から医師の指示のもと評価・運動療法を開始しています。十分なリスク管理のもと早期離床・早期歩行練習による身体機能向上・ADL拡大に取り組んでいます。

一般病棟では心臓リハビリもを行い、医師等と連携してリスク管理をしながら運動療法や生活指導を行い、ADL向上・社会復帰支援・再発予防に取り組んでいます。





● 回復期病棟

身体機能向上を目的とした練習に加え、病棟内の実際に生活している場所で動作練習を行い、入院中だけでなく今後の生活を見据えた理学療法を展開しています。また多職種と協働して、早期のADL向上と自宅復帰を目指します。

● 訪問・外来リハビリテーション

対象となる方が住んでいる地域で自立した生活を送ることや、自分らしく生きがいを持って生活できることを目的としています。必要に応じて自宅での生活状況の確認や動作・介護指導を含め、生活を支える視点でアプローチしています。



- 医療を支えるチームの一員として

当院では医療安全面において理学療法士が転倒・転落防止対策の立案やその点検等に携わり、理学療法の知識と技術を活用しています。

その他にも褥瘡対策委員会や排泄支援チームなど、理学療法士が活躍できる場は多方面にわたっています。

当院では、脳神経系理学療法において以下の3点に重点を置いています。

①装具療法

積極的な長下肢装具の利用と装具を使用した運動療法により、患者様の運動学習を効率的・効果的に行えるようにしています。

②電気刺激療法

ウォークエイド、ESPURGE（エスパージ）、IVES（アイビス）を利用し、身体機能の改善を図るだけでなく運動療法の効果を促進できるようにしています。



③早期立位・歩行練習

早期からの立位・歩行練習により、患者様のADL向上を支援します。安全・安心に練習が行えるよう、免荷式歩行リフトPOPOや部分免荷トレーニング機器も活用しています。



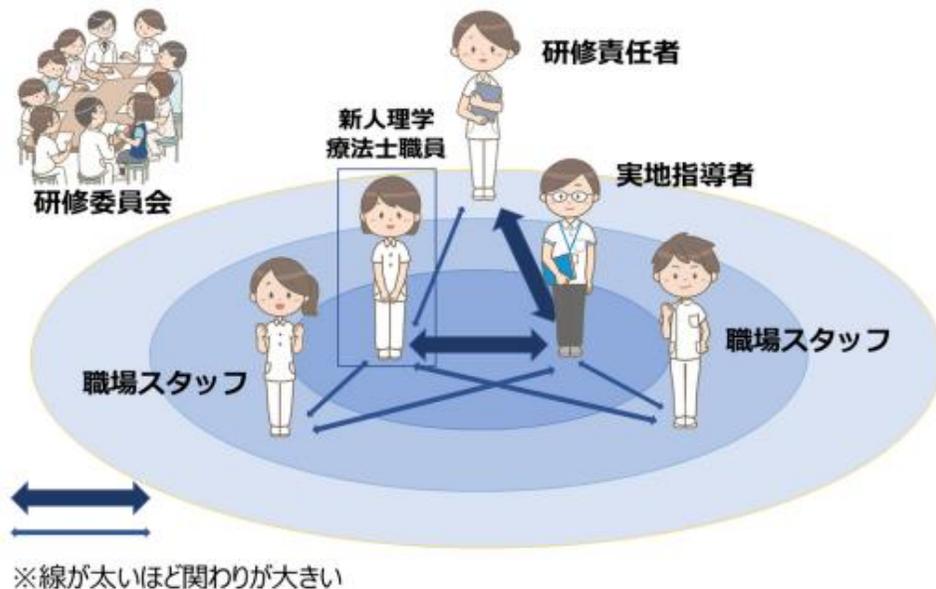
理学療法室の教育体制

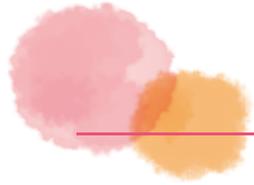
新人指導

基本的な理学療法の実践や、専門職としてふさわしい知識・技術・態度・管理能力が習得できるよう支援しています。

指導者が新人の能力に合わせて段階的に経験を積むことができるように計画しています。

臨床場面に即した職員評価を定期的に行い、短期・長期ゴールを立案して目標達成に向けた方針を共有します。





グループによる指導

回復期病棟ではグループ制を採用しています。役職者の指導のもとグループメンバー全員で相談しあい、方針や理学療法アプローチを決定します。

研修会

毎月症例検討会を開催し、理学療法評価や治療方法について意見交換する機会をつくっています。異なる立場や視点から多くの意見が出るため、より良い理学療法を提供できるために有意義な場となっています。



個人のスキルアップも積極的に支援しています。

当院理学療法士の保有資格(令和6年7月現在)

日本理学療法士協会 認定理学療法士(脳卒中・循環)

日本心臓リハビリテーション学会 心臓リハビリテーション指導士

3学会合同呼吸療法認定士

日本臨床栄養代謝学会 NST専門療法士

回復期リハビリテーション病棟協会 回復期セラピストマネジャー

社会福祉士

介護支援専門員(ケアマネジャー)

東京商工会議所 福祉住環境コーディネーター(2級)

職員の声①

➤ 理学療法士 1年目

理学療法士として勤務し数ヵ月が経過しました。患者様と深く関わる場面も徐々に増えてきて、わからない事や悩みも時には生じます。しかし、先輩たちは非常に優しい方ばかりで、気軽に質問や相談しやすい雰囲気です。

新人教育が充実しており、段階を踏んで理学療法手技や業務を学んでいくことができます。また、定期的に院内の勉強会が開催されますので、自身のスキル・知識の向上に努めることもできます。

より良いリハビリテーションを提供し、患者様の笑顔へつなげるように精進していきます。

職員の声②

➤ 理学療法士 5年目

理学療法士5年目になり、患者様に一生懸命向き合いながら理学療法を行っていますが、どのような患者様にどのような評価や治療が適切なのか、日々悩み葛藤しています。臨床に携わる中で多くの疑問が生まれますが、目の前の患者様に全力を尽くすだけでなく、症例報告や研究を通して臨床の疑問を解決し世の中に発信していくことも理学療法士として重要な役割と感じています。

当院では院内での症例検討会や勉強会を積極的に行い、評価・治療技術だけでなく、症例報告や研究に関する知識のブラッシュアップにも努めています。個人はもちろん、組織全体のスキルアップに少しでも貢献し、患者様へより良い理学療法を提供できるよう尽力していきたいと思います。

職員の声③

➤ 理学療法士 14年目

私は回復期リハビリテーション病棟での経験を経て、現在は訪問リハビリテーションに従事しています。実際の自宅環境での生活を見ることで対象者の課題をより具体的に知ることができ、理学療法士として視野を広げることができていると実感しています。

また訪問リハビリテーションでの経験がきっかけとなり、資格取得や地域活動への参加等のキャリアアップにも繋げることができています。この経験から地域における理学療法士の活躍の重要性を再確認し、やりがいを感じています。

今後も自立支援を念頭に最良な理学療法を提供できるよう努力していきます。

理学療法室長から

私たちは今年度の部門目標を「効果判定に必要な知識・技術を習得し実行できる」と設定し、患者様にとって最良の理学療法を提供できるように努めています。

当院は青森県で最も多くの理学療法士が在籍しています。それぞれの職員に様々なライフイベントがありますが、みんなで支え合い・助け合いながら業務をしています。

中枢神経系や循環器系理学療法に興味のある方はもちろん、熱意や向上心のある方は、ぜひ一緒に働きましょう！

理学療法室長 山本 賢雅